

# 浄泉寺報

第16号  
2019年  
春彼岸



手づくりの白い象を引っばった昨年の花まつり

彌陀の誓願不思議にたすけられ  
まいらせて、往生をばとぐるな  
りと信じて念仏もうさんとおも  
いたつこころのおおるとき、す  
なわち摂取不捨の利益にあづけ  
しめたまうなり。

『歎異抄』

浄泉寺住職 望月廣三

前号では、疑問を呈したお婆さ

んが土砂崩れによって息子夫婦

一家を失い、そのことを嘆いて、

この世には神も仏もないのか、と

わたしに詰問したのです。じつに、

悲痛な訴えでした。

このときわたしは、あいまいな

返答だけは避けようと思いまし

た。なぜなら、心身の疲弊にある

人にはいい加減な対応など通用

しないからです。

わたしは言いました。

「不慮の災害に見舞われたのは、

仏さまのせいではありませんよ」

「それでは、誰のせいですか？」

お婆さんはきつとなつて問い

ました。

「その場所に家を建てることに

したのは誰ですか？」

「息子です」

「そうですね。そこにマイホーム  
を建てるとき息子さんはいろい  
ろ調べられたでしょう」

「調べたとおもいます。宅地造成  
ですよってに」

「そうですね。充分調べたにも  
かわらず、土砂崩れを起こし  
た……」

「はい」

「そこですよ」と、わたしは声を  
上げました。「息子さんのせいで

もなければ、阿弥陀さんのせいで  
ありませんよ」

「……」

お婆さんには言っている意味  
が理解できないようでした。

「つまり、息子さんはその土地に  
家を建てる時、土砂崩れを予想  
できましたか」

「いえ……」

「そうですね。もしその土地を

所有している業者が事前に予測  
できていたにもかかわらず売っ  
たとすれば、これは別問題になり  
ますが。そうでなければ、そこに  
家を建てたのは因縁ですよ。運命  
ですよ。」

「運命……、ですか」

「はい」

「運命やったら、あきらめななら  
んですね。先生はあきらめ、言う  
んですか」

「本当にあきらめられたら、救い  
ですよ」

「えッ？そんなん、救い、言うん  
ですか」

お婆さんは目を丸くしました。

(つづく)



浄泉寺の花御堂

若坊守のひとりごと

娘は5歳になりました。よく支離滅裂で謎の癪癢を起したりもしますが（これがまた疲れる）、随分巧みな言葉で自己主張するようになりました。同時に私も母となつて5歳です。未熟さゆえ、娘の感情に振り回されることもしばしばで、今も娘の成長に追いつくので精一杯です。

それでもいつも自分の中で一つはつきりしていることは、「娘と私は全く異なる人間である」ということです。私のお腹から出てきたけれど、娘は娘として「ひとり」の存在で、決して相容れない別々の宇宙がお互いの中にあると感じています。そしてその「ひとり」が、私には何とも頼もしく感じられるのです。

人はひとりだと大無量寿経というお経にも出てきます。別々の人間だからこそ、親であってもコントロールできない命を名乗って娘も生きているのだと思うと、不思議と尊重できるのです。

(浄泉寺若坊守・釋尼彌名)

お内仏(仏壇)に座る ⑭ ～ 生まれた意義 “Being” ～

もうすぐ花まつり。お釈迦さまは、生まれてすぐに七歩歩いて「天上天下唯我独尊（わたしはわたしとして尊い）」と言われたと伝えられています。私たちは、生まれた時には、何一つ不平も言わず、まるごとの私として存在していました。しかし、歳を経ると「できる」か「できない」

か」が重要な意味をもってきます。英語でいえば「Doing」の世界です。つまり「すること」は「できない」をつくり出します。仏さまは今ここに在る(Being)自分を全肯定して「あなたは、あなたであっていい」世界を教えてください。私の人生に代打はいません。花まつりに、まるごとの私を確かめたいものです。



昨年の浄泉寺花まつりでのゲームの様子

(浄泉寺若院・釋亜世)

平成31年(2019年)年忌表

ご法事(年忌法要)は、亡き人をご縁に、仏さまの教えを、今生きる私たちが聞かせていただく大切な機会です。浄泉寺本堂でご法事を勤めることもできます。

一周忌	平成30年(2018年)亡
三回忌	平成29年(2017年)亡
七回忌	平成25年(2013年)亡
十三回忌	平成19年(2007年)亡
十七回忌	平成15年(2003年)亡
二十五回忌	平成7年(1995年)亡
三十三回忌	昭和62年(1987年)亡
五十回忌	昭和45年(1970年)亡

はなまつり

おしゃかさま お誕生日会

4月7日(日)

午後2時～

4時くらまで

どなたでも  
参加していただけます!

お子さんやお孫さんと  
ご縁にお参り下さい♪

場所 / 浄泉寺

ご参加のお子様には、  
記念品をお渡します!



浄泉寺からのお知らせ

<発行元・問い合わせ>



真宗大谷派 楠林山 浄泉寺

電話 0799-22-4798

〒656-0026 洲本市栄町4-3-43

ホームページ <http://jyosenji.asei.info>